

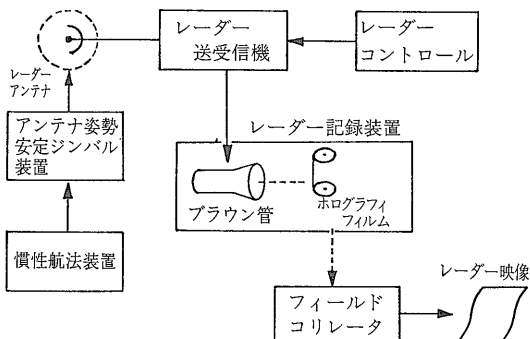
全国地熱資源総合調査

山口 靖・大久保泰邦・高木慎一郎・長谷 紘和
(元所員 新エネルギー総合開発機構)

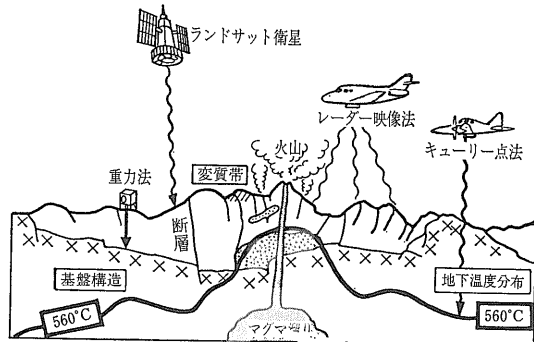
正井 義郎 (業務課)

豊かつ貴重な純国産エネルギーである地熱資源を全国的規模で調査する全国地熱資源総合調査が いよいよ本格化した。新エネルギー総合開発機構では わが国の地熱賦存状況をすみやかに明らかにするため レーダー映像法 キュリー点法 重力法を3つの柱として調査を行っている。これらの結果は 地質調査所が行う国土地熱資源基本図作成に関する研究とも密接な関係を持っている。

レーダー映像法は 航空機よりマイクロ波を発射し その地表からの反射映像より微細な地形・地質構造を解析する技術である。キュリー点法は 航空機により地球磁場を測定し 得られた磁気異常図から岩石磁性消失



レーダー映像法調査システム概要



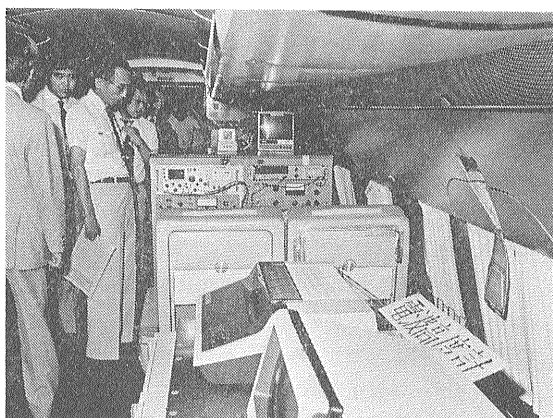
総合調査概念図

温度 (約 560°) の地下等温面を求める。重力法では 地熱貯留層の下盤となる基底構造を明らかにすることを目的としている。

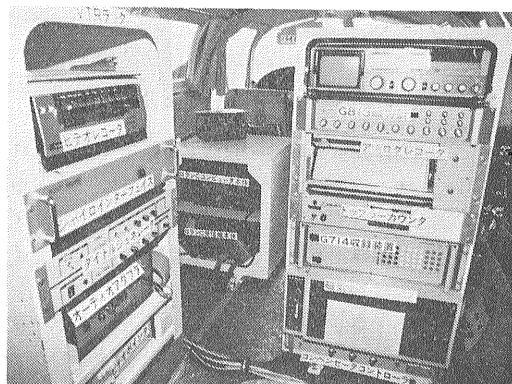
去る7月21日午後2時から 羽田空港において レーダー映像法およびキュリー点法の調査用航空機の見学会が開催され 関係諸機関から約170名が参加した。ここにそのもようを紹介する。



調査用航空機は 羽田空港全日空格納庫に展示された。手前がキュリー点法調査機 後方がレーダー映像法調査機。



カラベル機内部。手前は 電波高度計と飛行状態記録装置。



セスナ機内部。右側は磁気計と記録装置 中央奥はロラン装置 左側はビデオ装置。